

日本という「あたりまえ」から離れて分かったこと… マルタでの一ヶ月

留学体験

渡邊小百合 (NI-Youth)

8月、イタリア南部に位置するマルタ共和国に1ヶ月間の短期語学留学に行きました。マルタ島は淡路島の約半分の面積しかない小さな島で、治安も日本と同じくらい良い国です。

私がマルタを選んだ理由ですが、普通英語を勉強したいと考え、まず行き先はアメリカやカナダ、オーストラリアなどがあがると思います。しかし私は二つの点を考えました。

まずは費用です。マルタはアメリカ、イギリス、カナダなどと比べると格段に安いです。同じ費用で長く滞在出来るならそっちの方が良いと思いました。次に日本人の数です。メジャーどころではないマルタには日本人はそんなに多くいません。それが私にとっては魅力的でした。せっかく留学しても、日本人同士でツルんでしまって結局英語力が向上しない、という最近の留学事情をよく聞いていたので、絶対に日本人が少ないところが良いと思っていました。さらにヨーロッパ随一の治安の良さも決め手となりました。

今回の留学で報告したいのは、まずはマルタ英語についてです。公用語はマルタ語ですが町中で英語が使われています。使われる英語は少し訛りがあるブリティッシュイングリッシュです。しかし私のホストマザーは生粋のマルタ人でしたが、会話に苦労することもないくらい聞きやすい英語でした。私が通った語学学校のマルタ人の先生も、同様によく聞くブリティッシュイングリッシュでした。

では私が英語に関して何が一番苦労したのかというと、それは友達になった様々な国の人々が話す訛りの強い英語でした。トルコ、スロヴァキア、カザフスタン等、約15カ国の国の出身の友達ができましたが、各国の訛り

が強烈だったのです。

しかし、共通に理解可能な言語は英語しかありません。そんな中、ジェスチャーを使ったり絵を書いたり、互いに様々な工夫をしたことで、英語力だけでなくコミュニケーション力が格段に上がりました。この経験を通して発音や文法よりも、より「伝わる英語」が話せることの大切さを学ぶことができました。そのような点を含めて、私は日本人が少なく、且つ多種多様な国々の人が集まる国に留学することをオススメします。言いたい事が伝わらず悔しい思いもしますが、その経験こそが英語を勉強する上で高いモチベーションになると、今実感しているからです。



語学学校の友達と。左から5人目が筆者

前述の通り、私は様々な国の人々と友達になり、英語も沢山話せた希望通りの一ヶ月を過ごすことができました。しかしそんな私のマルタ生活は、実は到着して2日で携帯を盗まれるという最悪な出来事で始まりました。日本人の友達はおらず、家族、友達、和食、日本語…そして携帯と、ほとんど全ての「あたりまえ」から離れて、今までと同じなのは「自分自身」だけという状況でした。

そこで私はこの一ヶ月を「とことん自分と向き合う期間」にすることに決め、英語学習

と併行して将来について熟考することにしたのです。

マルタでは買い物一つするにも日本の倍くらい時間がかかってしまうし、道は迷路のようでどこに行くにも現地人に道を尋ねていました。携帯がなくなった際は、同居人のドイツ人が夜遅くまで一緒に探してくれました。この一ヶ月で困ることがある度に沢山の人の優しさに触れ、今まで当たり前にしてもらっていたことがいかにありがたいことなのかということが分かりました。

その時自分の周りをよく見つめ直し、いつも支えてくれる家族や友達、笑顔で道を教えてくれる現地の人、遊びに連れて行ってくれるクラスメイト…など周りにいる沢山のかけがえのない人々のお陰で、私は生きていられることに気付いたのです。

人の優しさや、これまで気付かなかったくらい小さなことに感謝することができると、今までにないくらい強い幸福感に包まれます。

これに気付けたことがこの一ヶ月の留学での一番の収穫です。

今まで出会った人やこれから出会う人に支えられて生きていることを忘れずに、これからも感謝の気持ちを忘れずに生きていこうと、今は心に決めています。

留学に行ったことのない方には、ぜひ一度日本という「あたりまえ」から離れることをオススメします。

もしかしたら本当に大切なものが分かるかもしれません。



レストランで友達と食事